

科目名	児童英語教育論			ナンバリング	EDU252	授業形態	講義
対象学年	3年	開講時期	前期集中	科目分類	選択	単位数	2単位
代表教員	川井一枝	担当教員					

授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> 授業の前半は、新学習指導要領に基づく外国語活動(3-4年生)ならびに外国語科(5-6年生)の歴史や基本的概念、具体的な内容について学ぶ。 第二言語習得(特に子どもの英語習得について)や代表的な教授法に関する理論についてもテキストや配布資料に基づき紹介する。 授業の前半は、実際に歌やチャンツ、絵本などの教材を用いて実践練習を行う。 最終回の授業では、それぞれ作成した指導案に基づきグループまたは個人で模擬授業を行う。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ①小学校外国語活動や外国語科の基本的概念を理解して説明することができる。 ②子どもの第二言語(英語)習得や代表的な教授法等に関する理論に対する理解を深める。 ③児童を対象にして英語を指導する際の教材や指導法を理解し、部分的に実践することができる。
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	<ul style="list-style-type: none"> 理論に対する理解を深めるために予習として使用テキストの該当箇所を読み自分なりにまとめておくこと。 文部科学省のサイトから小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック指導案をダウンロードして読んでおくこと。 授業で学んだ歌やチャンツなどは大きな声で自信を持って歌えるように自主練習しておくこと。 同様に、絵本なども何度も練習し感情をこめて読み聞かせできるように自主練習しておくこと。
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】
	○ 1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。
	○ 2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。
	○ 3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。
	○ 4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。
	○ 5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわしい関心・意欲・態度を示すことができる。

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
<ul style="list-style-type: none"> ①小学校外国語活動や外国語科の歴史や基本的概念を理解している。 ②子どもの第二言語(英語)習得や代表的な教授法等に関する理論を理解している。 ③児童を対象にして英語を指導する際の教材や指導法を理解し、部分的に実践することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①小学校外国語活動や外国語科の歴史や基本的概念を十分に理解した上で説明することができる。 ②子どもの第二言語(英語)習得や代表的な教授法等に関する理論について説明することができる。 ③児童を対象にして英語を指導する際の教材や指導法を理解し、指導案に基づいた適切な実践ができる。

評価方法	成績評価観点						評価割合
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○	○				20%
宿題・授業外レポート	○	○	○				30%
授業態度・授業への参加			○	○	○		20%
模擬授業の発表	○	○			○		30%

課題、評価のフィードバック	毎回、授業の後に振り返りを書かせ次の授業でコメントを返す。実践や模擬授業の直後に、良かった点と改善点を伝え、次に活かすよう指導する。
---------------	--

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	外国語教育の目的と目標	外国語教育の教科化の経緯と目的、理念について確認する。学習指導要領における外国語活動や外国語科の目標を理解する。	
	第2回	関連分野からみる外国語教育の意義と方向性	母語習得と第二言語習得について違いを理解する。臨界期仮説、発達心理学、学習者要因などについても理解を深める。	
	第3回	指導者の役割、資質と研修	指導者と指導形態、日本の現状や外国の現状をみる。よりよい指導者を目指すために、指導者の役割、資質と能力について考える。そのためにはどのような研修が必要か、研修会のあり方についても検討する。	
	第4回	教材の構成と内容	文法・構造シラバス、概念・機能シラバスなど教材やテキストの基本方針を学ぶ。	
	第5回	指導目標、領域別目標、年間指導計画の立て方と具体例	指導目標や年間指導計画の実際の具体例から学ぶ。	
	第6回	言語材料と4技能の指導	外国語活動・外国語科の言語材料を知る。聞くこと・話すこと・読むこと/書くこと(リテラシー)の指導について学ぶ。	
	第7回	教材研究1	歌、チャンツ、絵本などを用いた指導方法について学ぶ。実践練習を行う。	
	第8回	教材研究2	歌、チャンツ、絵本などを用いた指導方法について学ぶ。実践練習を行う。	
	第9回	教材研究3	クイズ、ゲーム、会話活動を用いた指導法について学ぶ。実践練習を行う。	
	第10回	指導方法と指導技術1	CLT、ナチュラルアプローチ、CBI、TPRなど代表的な指導法を学ぶ。発達段階に応じた指導法について考える。チームティーチングなど効果的な指導形態について考える。	
	第11回	指導方法と指導技術2	CLT、ナチュラルアプローチ、CBI、TPRなど代表的な指導法を学ぶ。発達段階に応じた指導法について考える。チームティーチングなど効果的な指導形態について考える。	
	第12回	評価のあり方、進め方	評価方法、評価の観点と望ましい評価のあり方について学ぶ。パフォーマンス評価、ポートフォリオ評価など様々な評価方法の活かし方と留意点を考える。	
	第13回	授業過程と学習指導案の作り方1 模擬授業の準備	授業過程の役割と必要な活動を考える。学習指導案の構成と作り方を学ぶ。模擬授業の指導案を作成する。	
	第14回	授業過程と学習指導案の作り方2 模擬授業の準備	授業過程の役割と必要な活動を考える。学習指導案の構成と作り方を学ぶ。模擬授業の指導案を作成する。	
	第15回	模擬授業とまとめ	模擬授業を行い、全員で評価、ディスカッションを行いまとめとする。	
	試験	期末試験は行わない。		
授業の進め方	理論の理解に関しては、テキスト、文部科学省HP資料、配布資料を中心に進め、レポートで評価する。指導技術に関しては、授業中の練習態度や模擬授業で評価する。基本的には、ディスカッションや実践練習など活動が多い参加型の授業である。			
授業外学習の指示	テキストは必ず早めに購入して授業の前までに読んでおくこと。(毎回の予習として90分) 実践の発表や模擬授業の準備はしっかり行うこと。(120分～) 事前課題やレポートはmanab@を使用して連絡するので必ずチェックすること。 (授業外学習時間: 毎週 90 分)			

教科書	新編小学校英語教育法入門(2017)研究社 (著者)樋口忠彦/ 加賀田哲也/ 泉恵美子/ 衣笠知子 ISBN: 978-4-327-41098-8
参考書	新テキスト We Can! (2017年9月 暫定版)/ そのほか配布資料
参考URLなど	文部科学省 小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1387503.htm
その他	